

英語を話す必然性がある授業

今の学習指導要領になり小学校 3 年生から外国語活動を行っています。中学年（3・4年生）の外国語活動のねらいは、英語



を使って、コミュニケーションを図ることの楽しさや大切さを知ったり、英語の発音やリズムに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気づいたりすることで、「聞くこと」、「話すこと」を中心に行っています。高学年（5・6年生）からは、発達段階に応じて段階的に「読むこと」「書くこと」を加え教科としての学習を行っています。



3・4年生は、イングリッシュボランティアの方にお越しいただき指導者とともに授業を行っています。市島中のALTの方からも指導を受けていますが、5・6年生が中心となることから、中学年については市教委の募集に登録頂いた英語の堪能なボランティアの方にも発音などを中心





にサポートいただいています。

3年生の授業では、ウォーミングアップとして、「circle 丸い形」や「heart ハートの形」などを声に出しながら教室から見つけていました。その後一人ひとりがクリスマスカードを作ることを目標に、2人の指導者に自分がカードづくりに必要な「色」や「形」「枚数」を英語で伝えるように仕組んでいました。子どもたちが英語を話す必然性を生み出しているところがうまいなあと感じました。

また、ボランティアの方も子どもたちの発音を「Good」「Nice」と常に評価してくださり、自分が欲しかった形をもらっていく子どもたちはとっても嬉しそうでした。いいカードが出来上がりそうです。